

FQ JAPAN3月号増刊  
[アースジャーナル]

農と自然エネルギーを楽しむ生活マガジン

創刊

# EARTH JOURNAL

vol.  
01

定価  
300円  
2016 WINTER

[特集]

## 大地をつなぐ

持続可能な「食」と「農」

### 農的ライフ

都市生活者の「食べる・育てる」

—マイファーム／京都府京都市—

### 地域活性化

エコツアーに託す想い

—「千年希望の丘」岩沼復興アグリツーリズム／宮城県岩沼市—

### 自然エネルギー

環境制御型ハウス×電源型ソーラーシステム

—グリーンラボ善導寺ファーム／福岡県久留米市—

FUTURE AGRI

生き残りをかけた  
火星的農業

映画「オデッセイ」

from ZAMBIA

## 貧困、環境問題、野生生物の減少…… 負の連鎖を解決する「バナナペーパー」の話

世界125ヶ国以上で栽培されているバナナ。2010年、バナナの収穫時に廃棄される大量の枝や茎を原料とする新しい製紙業が、アフリカ南部の内陸国ザンビアで産声をあげた。

text :Aya Asakura



### 紙を選ぶことで 人と自然を守る

世界には、家族を養うために野生動物の密猟や違法伐採に手を染める人々がいる。貧困と戦う人々にとって、野生動物の減少や、生物多様性が損なわれる環境問題は二の次。禁止する法律を作っても、その正義は通用しないのだ。一方、世界では、熱帯雨林などの木を原料とする紙が大量に使われている。その消費量は全世界で1日1000万t以上。日本人は1人あたり1年200kg以上の紙を使っており、森林破壊と電力消費による温室効果ガス排出の一因になっている。

バナナペーパー・ビジネスは、地球規模のこれらの問題を一度に解決できるビジネスモデルだ。これまで使われていなかったバナナの枝や茎を原料にしたバナナペーパー1tで、約20本の本が節約できる。ザンビアでは、オーガニックなバナナを繊維に加工する仕事で新しい働き口として機能し、貧困から脱出した人が現れている。

一方の日本では、バナナペーパーを選ぶ企業が登場している。事業を運営する株式会社ワンプロネット・カフェ取締役のペオ・エクベリさんは、「取引先の企業から『エコな紙はたくさんあるけれど、貧困問題にも切り込んでホリステックに(包括的に)社会貢献をしている紙はなかった』という評価を貰っています。『使う紙を選ぶ』という身近なアクションで、課題解決のストーリーに参加できる。紙を売っているというよりも、サステナビリティを売っている、という意識です」と語る。「課題解決」という付加価値により、同じグレードの一般的な紙と比べて10倍という高価格にもかかわらず、大手自動車メーカーや東京藝術大学、化粧品メーカーなどに採用され売り上げは順調。これはもちろん、紙自体の品質の高さがあってのことだ。名刺や商品パッケージなどの高級紙市場にも応えられるよう、越前

### ビジネス用途で選ばれ 売り上げは順調

和紙の技術で滑らかでしつとりとした質感を実現。わずかに残ったバナナの繊維が砂子のような趣を添えている。2013年には、紙製品メーカー、印刷会社7社が提携したワンプロネット・ペーパー®協議会が発足し、生産・流通の輪も広がり安定供給ができるようになった。

### バナナ農家は収入アップ 146人の子どもが学校へ

現地の工場では今、25人の「元、貧困層の人々がバナナの茎から繊維を取っている。その仕事もたらす収入で、マリアアを予防する蚊帳を買ったり、電気のない家にソーラーランプをつけることができたという。そして、バナナペーパーの仕事のおかげで、彼らの子供たち146人は、学校へ行けるようになったのだ。

バナナの茎は、10箇所の有機農法のバナナ農家から運ばれてくる。農家にとっては、バナナを収穫するたぎに出る廃棄物を買ってもらえるありがたい存在である。「工場を運営するにあたり、フェアトレードの12のルールを遵守しています。バナナを植えるために森林を伐採していないか、関わっている人が密猟をしていないか、児童労働を





(右) 木が成長に10~30年かかるのに対して、バナナの茎は1年で再生する。(左) ゾウは40年間で半数、キリンは15年間で40%、ライオンは70年間で90%が姿を消した。密猟を止めるには、貧困の撲滅と先進国での市場を無くすこと(絶滅危惧種の商品を買わないこと)が不可欠だ。

させていないか、など。ある問題の解決策が、別の問題の原因にならないようにすることが大切です」と、エクベリさん。

エクベリさんのもとには今、ミャンマーやウガンダなど20もの国から問い合わせが寄せられている。「計算上は、全世界の紙の需要をバナナの茎だけで賄える可能性がある、と言われていました。紙はバナナからできているのが当たり前の世界にしたい」というビジョンは、着実に現実へと近づいている。



## バナナペーパーには、「参加」したくなる、世界につながるストーリーがある。

今回の対談のお相手は、株式会社ワンプラネット・カフェのエクベリ夫妻です。トータルエコリフォームをしたご夫妻のご自宅マンションで、バナナペーパー事業の希望に満ちた経緯と展望をうかがいました。

photo: Miho Fujiki text: Aya Asakura



バナナペーパーは「One Planet Paper®」の商標で流通。20%以上のバナナ繊維と古紙が原料だ。

### ザンビアとの出会いは 休暇で訪れた国立公園でした

ご自身の名刺や講座の修了書に、エクベリ夫妻のバナナペーパーを選んでいる末吉さん。まずは、その誕生秘話に迫ります。

末吉さん そのそもそのザンビアとのご縁はどこに？

聡子さん ザンビアの大自然と野生動物を間近で見ようと、サウスルアングワ国立公園を旅行したのがはじまりです。

ペオさん その時ついでくれたエシカル・サファリガイドのビリー・エンコマが、今では現地のビジネス

#### <聞き手>

末吉里花さん  
TBS系「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターほか、司会や、レポーター、モデレーターもこなす。フェアトレードを中心に活動を展開し、日本全国の企業や高校、大学などで講演、各地のイベントでトークショーを行う。一般社団法人エシカル協会代表理事。ラジオFMヨコハマ「SHONAN by the Sea」レギュラーパーソナリティ。  
<http://ethicaljapan.org>





4

3

2

1

1 初めて有機バナナ農園を訪れたベオさん。ゼロから開拓し、現在は10の農家と契約を結んでいる。2 工場での生産は、ソーラーや水力という再生可能エネルギーを活用し、CO2排出量はほぼゼロ。働く人々には、敷地内の農園で育った有機野菜をソーラーバイオクッカーで調理した食事を提供している。3 工場は地元の村で大人気。茎を運ぶ黄色いトラックが通ると、「バナナペーパー！」と声がかかる。「世界中でバナナペーパーが珍しくなくなるのが目標」と聡子さん。4 現地パートナーであるビリー・エンコマ取締役(中央)、在ザンビア日本国大使の小井沼紀芳氏(右)と。

「聡子さん 教育を受けて仕事に就ける成功事例が出てきたことで、学校は授業料を収益源にした事業として回っていました。でも、すぐ近くでチャリティ団体が無料の学校を始めたら、誰も来なくなってしまう。次の一手を模索していた頃にバナナ名刺の存在を知

り、ふと周りを見渡したらバナナ畑だらけ！ 50箇以上、有機栽培のバナナ農家があることがわかり、訪問して話を聞くと、バナナペーパーが作れる茎は川に流したり燃やして処分されていて「いらなもの」として扱われていたんです。それが2011年のことです。

現地の人々はスタッフではなく一緒に世界を変える仲間

末吉さん そこから5年でここまでかたちになってるなんて素晴らしいですね！

ベオさん 慈善や寄付ではなく「一緒に世界を変えるための事業をつくる」というスタンスで取り組んでいるからだと思います。繊維の作り方すらわからないところから、バナナの茎を叩いたり踏んだりして「こうやったらとれる」「こういう道具がいんじゃないか」と試行錯誤したことで、みんなの



ベオ・エクベリさん  
ワンブラネット・カフェ 取締役・環境マネージャー/スウェーデン出身。日本全国でサステナビリティをテーマとした講演・コンサルティングを行う。



エクベリ聡子さん  
株式会社ワンブラネット・カフェ 代表取締役社長/15年以上にわたり、企業の環境ビジョン・戦略策定支援などを通じた持続可能な世界の実現に取り組む。

力を最初から集結できました。末吉さん 8000坪の土地を購入され、事業を拡大する展望とお聞きしていますが、課題になっていることはありますか？

ベオさん やはり資金の問題は常に頭にあります。最初はこれまでの自分たちの貯金を使い、工場を建てるための第1ステージとして、クラウドファンディングを利用して300万円を集めました。第2ステージは商品の売り上げで。第3ステージとして、日本大使館の助成金に採択されました。このお金で2棟の建屋をつくり、バナナ繊維100%の手すきの紙づくりを始めます。育ってきた市場をさらに広げていくために、昨年はバナナ繊維5%FSC認証パルプ95%の新商品も開発され、価格を一般的な紙の3〜4倍に抑えることができています。雇用の確保とバランスを取りながら機械を導入して生産性を上げ、将来的にはより一般的な紙として流通できるようにしていきたいですね。

末吉さん 消費を抑えつけるのではなく、商品の大元を変えることで一気に変わっていく。バナナペーパーが、世界を変えると確信しているし、その一部になりたいとますます思いました。

「ベオさん 教育を受けて仕事に就ける成功事例が出てきたことで、学校は授業料を収益源にした事業として回っていました。でも、すぐ近くでチャリティ団体が無料の学校を始めたら、誰も来なくなってしまう。次の一手を模索していた頃にバナナ名刺の存在を知